

「病院」総目次 (第2巻第1号～第5号)

第2巻 第1号

社会保障とその根拠	大河内 一男
病院管理の諸問題	屋村 偉久
病院と管理 (その7)	吉田 幸雄
近代的病院組織	島内 武文
其の他の従業者	守屋 博
座談会	{羽仁, 川西, 風岡 金子, 吉田, 守屋 久松
家庭婦人と病院	
経営費用に関する国際病院協会の見解	山元 昌之
日本に於ける病院建築の実際 (その1)	小林 仙次
外誌涉読「養生所」の追憶 (1)	荒瀬 進
アンケート1950年への抱負	
病院概史 (その4)	
病院人事消息	
医学の進歩に伴う治療形態の変化	
病人が少なくてさかる病院	
管理者メモ	
編集後記	

第2巻 第2号

英国の開業医と国管医療	千種 峯蔵
病院と管理 (その8)	吉田 幸雄
病院の管理	中山 安
アメリカの結核病院	小谷 新太郎
受難期の病院管理	新垣 恒政
病院と牧師	竹田 真一
病院施設の二三について	本名 文任
大部屋拜見	守屋 博
病院給食と特別食	中山道子・小池サヨ子
病院統計解説 (4)	瀬木 三雄
病院管理研修所便り	島内 武文
長崎「養生所」の追憶 (2)	荒瀬 進
病院概史 (その5)	
病院に関する用語とその訳語	
病院人事消息	
管理者メモ	
編集後記	

第2巻 第3号

サービス瑣談	栗山 重信
米国医療関係調査団の病院に	
関する勧告	尾村 偉久
病院と管理 (その9)	吉田 幸雄
病院と精神衛生	村松 常雄
病院収入記録の研究	守屋 博
日本に於ける病院建築の実際	小林 仙次
病院営繕係の経験	木谷 平次
長崎「養生所」の追憶 (3)	荒瀬 進
病院概史 (その6)	
病院人事消息	
病院に関する用語とその訳語	
医師以外の病院開設	
盲目でも働ける	
モデルホスピタル建築設計	
編集後記	

第2巻 第4号

病院の管理	橋本 寛敏
院長覚え書	家田 三郎
病院と管理 (その10)	吉田 幸雄
生理学と病院	藤森 閑一
病院と原価計算	守屋 博
「病院医師の活動を阻むもの」反駁	米持 栄二郎
医療管理者テスト	尾村 偉久
某病院に於ける凍水使用量	松野正徳・清水里都子
日本に於ける病院建築の実際 (3)	小林 仙次
病院組織と総看護婦長制度	小西 宏
ホテルのぞ記	島内 武文
病院概史 (その7)	
病院人事消息	
入院患者生活の断片	
研修所だより	
病院に関する用語とその訳語	
会社附属病院の診療	
新潟県病院協会のスタート	
編集後記	

第2巻 第5号

病院経営の本質と経理の目標	山元 昌元
---------------	-------

病院経営統計論	菱 沼 従 尹
病院経営の特異形態	鹿 毛 俊 吾
病院と管理(そのII)	吉 田 幸 雄
座談会「蛇の穴」を見る	村松常雄, 吉田幸雄, 守屋博, 三浦貞, 長谷川泉
医療管理者テスト	尾 村 偉 久

医療器械規格制定	笹 本 正 二 郎
病院の日	
病院人事消息	
管理者メモ	
米国に関する資料	
編集後記	

編 集 後 記

「病院」も発刊以来各方面の御協力、御支援によつて満1年を迎えようとしています。次号第3巻第1号はその意味で増頁の特集号にいたしたいと思っております。

ちょうど殆んど同時に発足した厚生省の「病院管理研修所」も満1年の歩みを進め期せずして一周年記念をむかえております。研修所では現在も長期講習が行われておりますが、いままでにこゝで病院管理の基本となる重要問題についてマスターして地方に帰つた者の数は数百名に上り、それが地方での中心となつて放射状の新知識、新理論が日本の病院の向上に資していることを思うと、僅か1年間の成果であつたとはいえ、大きな足跡を残したものと云えます。

雑誌「病院」もようやく軌道に乗つて自らの歩みを進めることが出来るようになりました。ここまで到達するには厚生省を始め、病院管理研修所の強力な御支持があつたことを銘記しなければならず、こゝで編集面においても劃期的な飛躍をとげようと思つております。

次号は研修所の1カ年の足跡をはじめ、病院管理についてのこの1年間の理論的水準の向上及びその具体的な成果についての総決算としての検討を行うほか、特に病院建築問題に関する権威者による特集を計画しております。御期待下さい。

表紙に示してある病院管理の各部門の図式的説明についても解説を加えようと思います。

そのほか「病院」1年間の歩みについての御批判や御意見があつたらどしどし、お寄せ下さい。「病院」の窓はあかるく各方面に開放されております。どしどし御投稿を御願ひ申し上げます。

各地方に病院協会結成の動きが見られるようですが、このようなニュースについてもどしどし編集部あてに御報知下されば幸甚に存じます。

本号の巻末には第2巻の総目次を上げました。創刊号を除いてはバック・ナンバーの残部が少数ですが御座いますから御希望の向は至急御申込下さい。

本年度の「病院」はおよそ病院管理に関する根本的な問題にふれる事柄は表面極めてさ細なケースでもとりあげ、そのような具体的な問題に即してその根底にひそむ問題性を徹底的に検討してゆき度いと思つております。そのような具体的な問題の1つ1つを解決してゆくことによつて病院管理の後進国日本の具体的な水準向上に資し度いと思います。御支援を御願ひいたします。

(編者)

患者へのサービス—それが病院の最大にして最終の目標である。